



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン：11月22日予定の下院・地方議会選挙に野党はボイコットを表明

10月11日、シーア派の政治団体であるウィファークを始めとする野党系の4団体は、共同声明を発出し、これまで政府との対話を要請してきたものの十分な返答がなかった、現行の選挙制度は不公平なものであるとし、11月22日に予定されている下院・地方議会統一選挙のボイコットを表明した。

他方、バハレーン政府は、全ての国民に立候補、投票の権利が認められているとし、立候補者数は過去最多の493人（うち下院選立候補者322人、地方議会選立候補者171人）となったと発表した。

評価

バハレーンの議会は、2002年の憲法改正以降、二院制を採用しており、上院・下院ともに定数40人、上院議員は国王の勅令によって任命され、下院議員は選挙によって選出される。バハレーン議会は上下両院とも立法権を有し、閣僚の罷免権や国王の発出した勅令の承認権も有するが、上院議員が国王の勅令によって任命されることもあり、議会が行政府に対して持つ力は相対的に低い。また、下院においても、選挙区割りや国民の多数派であるシーア派に不利な区割りとなっていることから、シーア派が議会の多数派を形成することは困難になっている。

ウィファークは、2002年の第一回下院選挙はボイコットしたものの、2006年、2010年には選挙に参加し、それぞれ17議席、18議席を獲得して議会内での最大勢力となった。2011年の「アラブの春」における抗議活動で政府がデモを弾圧したことに抗議し、ウィファーク所属の議員は全員辞職。その後、国民和解プロセスである「国民対話」を通じて政府との対話を継続していた。

11月22日の選挙は、下院議員の任期終了に伴う定例の選挙であり、以前からこの時期に選挙が実施される見通しであった。政府は、それまでに国民の間に和解ムードが醸成されることを目指してきたが、ウィファークを始めとする野党との交渉に失敗。選挙日発表の直前の9月16日、サルマーン皇太子はシーア派関係者との会合で選挙区、立法権など5つの核となる要素で合意したと述べたものの、ウィファークは、我々は16日の会合に出席していない、5つの要素については8月26日に王宮府から提案があり、我々は議論する用意があると表明したにも関わらず、今日に至るまで政府から何の返答もないとの声明を発出していた。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799